

参加者：川村町長、駒田委員長、寺本委員、早川委員、片岡委員、稲田教育長

事務局：諸岡学校教育課長、早川生涯学習課長、山内学校教育課主監

(記録 長崎学校教育課課長補佐)

1. 川村町長あいさつ

今までは年に1回程度の懇談会であったが、教育委員会制度の改正に対応し、学校、社会教育の色々な問題について、みなさんとともに協議してすすめていきたい。

2. 協議事項

1) 総合教育会議の運営について

(提案：諸岡課長)

✚ 初回なので、運営方法がこれでよいかどうかを確認してほしい。

✚ 日程のところにある「緊急の場合」とは、いじめ等重大事案が起こった場合などのことである。

(異議なし)

2) 教育大綱について

(提案：諸岡課長)

○総合計画と教育大綱について

✚ 後期の川越町総合計画を教育大綱としてみなす提案をする。

○川越町の教育の現状と課題について

✚ 後期の総合計画は現在、改訂検討中のため、現状と課題について事務局案を説明させていただく。

学校教育の基本施策について

(提案：山内主監)

社会教育の基本施策について

(提案：早川課長)

提案・説明を受けて 意見

(駒田委員長) 教育大綱の年限は？

(諸岡課長) 法的な縛りはない。

(稲田教育長) 後期の川越町総合計画が5年間を見通しているの、当面5年間とらえる。

(駒田委員長) 大綱は5年だが、教育基本方針は3年で見直すというのでよいか。

(諸岡課長) そうなると思う。

(駒田委員長) 特別支援教育の件については、今後の課題が書かれていない。明記しておかないと伝わらない。

(山内主監) 特別支援教育の必要性は高いが、学校教育課のみでできることは限られているので、課の施策には入れることができなかった。

(川村町長) その点については、福祉課と健康推進課と学校教育課の連携ができる場を持つべきではないか。定期的に連携していくべき。

(稲田教育長) 今ある組織を活用して、充実させていくことが考えられる。特別支援教育スーパーバイザーとの連携のあり方もあわせて、課題としてとらえていきたい。

(川村町長) 他課との連携を深める機会を、年に1～2回程度でもよいので、実行していったほしい。必要な施策は進めてほしい。

(駒田委員長) 支援員は他市町と比較して充実しているが、成果が見えてこない。

(山内主監) 確かに充実している。活用にもっと工夫がいとらえている。

(駒田委員長) コンパクトシティが町の特徴。小中一貫的な事業をすすめていけるのではないか。

(山内主監) ゲストティーチャーの活用を通して、地域の教育力向上についてはすすんでいる。

(駒田委員長) 月に一度の広報より、新聞の記事はインパクトがある。教育の特徴はアピールしていきたい。

(川村町長) 南小の米づくりも、田植えから情報公開すれば、一連の活動が取材してもらえる。

(片岡委員) 広報等に知らせることは大切。事業の内容だけでなく、その事業の活用の様子や効果を知らせる内容こそ、発信するとよい。

(駒田委員長) 家庭教育の充実。青少年の項目に入れ込んで、若い保護者への施策を打ち出し、その年代層が集まる機会をつくるのが大切ではないか。

(早川課長) どの企画についても、新規の参加者は少ない。

(川村町長) 多くの母親が働いている現状があるが、サロンの活動に、若い方が入り、交流できるとよいが。

(駒田委員長) 何事もきっかけ。いっしょに活動できるきっかけが大切。

(片岡委員) ブックカフェは、ボランティアハウス「ささえあい」で行い、18組の親子連れが参加。若い方がたくさん参加してもらった。絵本を楽しむとともに、育児相談やお茶を飲むほっとした機会となっている。

(早川委員) 大人が絵本に親しむことも流行ってきているので、いい企画。

(片岡委員) オールダースの方とのふれあいも効果的。

(早川委員) きっかけがあっても、どう継続させるかが課題。

(片岡委員) 少しずつ声かけを重ね、サークル活動に引っ張っている現状。個々で話すことが、結びつきを強める。小ぢんまりとしたスペースで、「徐々に、互いに、楽しく」がコンセプトである。

(駒田委員長) 町の方々は、お願いすれば受けてもらえる。呼び掛けるより、お願いすることが大切。「場所の設定」は、まさしく行政のできることではないか。集える場の開放が有効。財政支援も大切である。

(片岡委員) 集う場所の確保がされていることは、とても有効である。活動への意欲につながる。

○学力向上について (山内主監 説明)

○MLK-V (資料館、図書館、公民館事業の連携とボランティア) について

(早川課長 説明)

(川村町長) 家庭学習をいかにすすめるか。

(山内主監) 「家庭学習がここまで伸びてきたよ」という到達型のアピールですすすめていくことが有効と思っている。

(駒田委員長) 戦略的な言い方をすればよい。いかに学習させるか。教師の指導力向上が重要。子どもに「学習しろ」と言うばかりではいけない。そういった意識が教職員全員にあるか。

(寺本委員) よい先生につけば伸びる。この傾向はある。教師力を引き上げることが大切。

(駒田委員長) 「先生をめざす子」を増やしたいものである。よい先生との出会いが大切。町民は学校の先生への信頼は大きい。

(早川委員) 家庭学習の大切さを、保護者へもっと伝えてはどうか。

(稲田教育長) 学校現場ですべきことがどんどん増えている。家庭教育への視点を持たせるためにはどうすればよいものか。町民アンケートで「学校ばかりでとらえている傾向があるが、家庭の問題であるという内容もたくさんある」という意見があった。このように見てもらえる町民がどのくらいいるか。学校では、個別に直接働きかける機会が重要と思われる。家庭教育の課題は懸案事項とする。学力向上に向けての町の推進事項については、少しずつ成果が見える項目もある。今後も地道にすすめていきたい。

3. 川村町長から

今後も、このような形で会議をし、ご意見をいただく機会としたい。